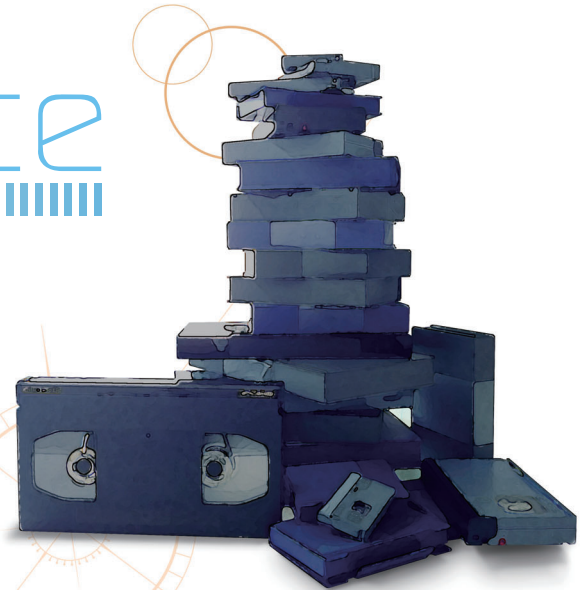


テープメディアからデータメディアへ。

Archive Service

「え？ このテープ、もう見られないの？」
あわててしまう、その前に。



倉庫に眠っている映像テープが、もうすぐ再生できなくなるのはご存知ですか？

D1 2013年



βcam 2014年



D2 2015年



Dβcam 2016年



DVCAM 2017年



HDCAM・HDCAM-SR 2023年



少し前まで主流だったテープメディアですが、もうすぐ大半のデッキのメーカーサポートが終了してしまいます。倉庫で保管している映像テープをそのままにしていたら、多くの映像資産を失ってしまうかもしれません。そうなる前に、データフォーマットに変換しておけば安心です。とはいえ、大量のテープをデータに変換するのは時間と手間が必要です。

「倉庫代カット」で経費を削減

映像テープのデータファイル化で、スペース削減が実現。保管コストを大幅に減らすことが可能です。

「しまっておく」から「いつでも使える」に

データ化で利便性がアップ。ただとっておくだけではなく、映像資産を有効に使うことができます。

ずっと残しておくものだから、品質にもこだわりたい

高い技術力を持つ「映像のプロフェッショナル」が、高品質で確実な商品をご提供いたします。



カビ・劣化などクリーニングが必要な場合も修復のご相談が可能です。

※上記以外のテープメディアもご相談下さい。

保存メディア



ODA Optical Disc Archive ※第3世代

大容量で可搬性に優れ、高い耐久性と保存性も兼ね備えた光ディスクカートリッジです。磁気テープに比べランダムアクセスにより素早いファイルの取り出しが可能という特徴があります。保存容量5.5TB、保存寿命100年以上を確保、通常保存に近い運用を確保しながら長期保存が可能です。



LTO Linear Tape-Open ※第7世代

大容量データ保存に適したデータメディアで、HDDと比較すると保管可能容量が大きく、メディアの価格も低いです。大容量のデータを長期にわたって保管できるうえに、運用にかかるコストを低く抑えられるというメリットがあります。